



和漢  
增補畫本  
竅鑑

四



繪本寶鑑卷第一目錄

才一

楚莊絕纓

才二

聖人賢人

才三

巢父許由

才四

劉訓

才八

司馬相如

才六

尾生

才七

韓退之

才八

東坡李商隱

才九

仁公子

才十

義公孫

才十一

大公望

才十二

范蠡

才十三

嚴子陵

繪本寶鑑卷第一目錄

繪中寶鑑

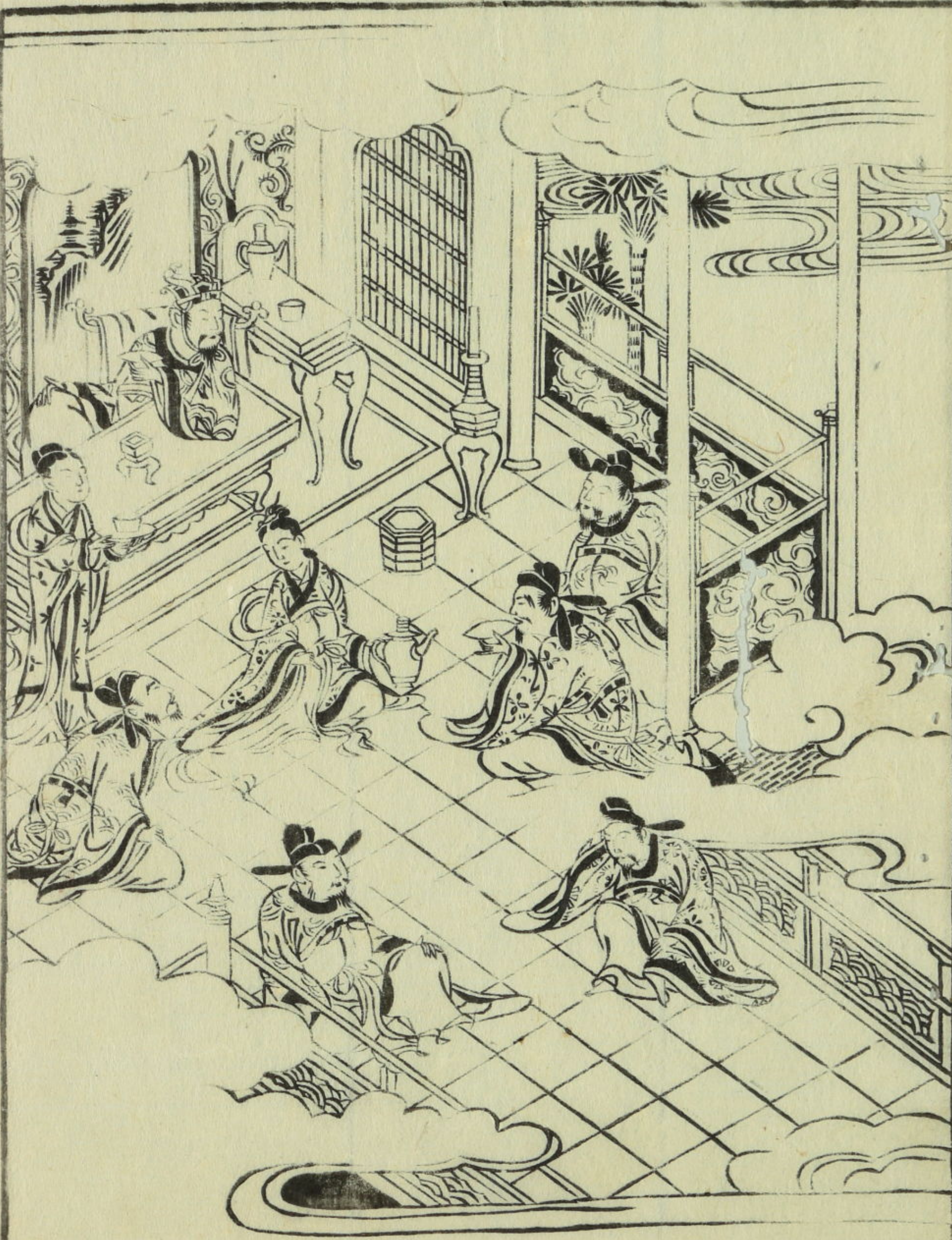
第一

楚莊絕纓

楚の莊王群臣小酒と賜う。時其具醉に。紅目  
 西山より入るは炬火と稱け。宮女砂と云く。吾ひ碎と  
 と。し。の。れ。お。う。何。う。も。り。も。ん。沛。前。の。燭。熄。る。う  
 小一人の身下。あんで。義人の衣とひく。義人。驚。止。て。そ。れ  
 ひく。もの。冠。の。緒。も。も。援。絶。る。義人。ひ。く。も。小。王。に。け  
 う。と。若。ら。ま。う。と。燭。火。明。小。あ。は。け。の。う。り。の。緒。と  
 き。と。世。だ。ん。も。の。と。そ。れ。そ。と。あ。の。冷。下。と。門。を  
 ち。王。の。名。を。ら。ハ。人。子。酒。と。賜。く。碎。と。し。う。ハ。は。は。れ  
 あ。ひ。あ。り。碎。と。礼。と。失。う。ハ。こ。世。を。兼。よ。り。ん。ん

え来具と催さんふめは酒宴なれどらつるは  
 人とはにかつんを仁道ふらふと龍顔かつて打  
 解させ治し義人小治るは海つふと一は林妙を  
 されどと眠酒と居下よあふらうらうらうら  
 婦人の節とわらうらうらうらうらと辱免  
 やうくすあつらふ志の人より命あて今日あて  
 とよほと研で研とよき甚とよそと研らたの  
 ちみよ寄冠の縷とよけをたさるものばうら  
 こころとありき世と百人をたさる居下みなそ  
 縷とよあてとたれとよとくに火とよあてれ  
 ごとふれ冠の縷とよとらるゆ人義人の衣ひたさ

と流しそれとよとれどつらうらうらとよとよと  
 酒宴あてとふらう。歌名晋の玉と楚の國と戦ひ  
 とらう。楚とあやうかりしとらうよ一人の居下。前よ  
 あさかりとよふい歌よ合くめとよひ首と切獲らら  
 まら歌と退退も。年よ勝軍とよあつらうらうら  
 在とあやみ。いうあつらうらとよとよとよとよとよと  
 酒と酒はよと酒りしとよ義人よ縷とよとよと  
 のあり。とつらうらとよとよとよとよとよとよと  
 とよとよとあり。是とよとよとよとよとよとよと  
 海りくらゆ人ふらん。海りくらゆ人ふらん。海りく  
 ぶらありけん



第二 聖人賢人

凡由不納履李下不整冠と有は詞と見えり。是ハ  
聖人の心なり。聖人の心ハ温調とやつくかゝるが  
ころなり。子ころは、温調とよむは、温調とよむ  
ころなり。人の疑ふ事とかは、聖人の徳とて、人の  
心とて、あがくされども、疑ふ事人の植む。凡の田と  
て、くまらば、疑はるる直は人みぬやと、しこ  
り、人の心よりぬなり。又李子きぬの本の下とて、  
これ時、疑はるしとて、これとて、人の心より疑ふ事  
や、人疑ふ事とて思惟て、終る疑ふ事とて、  
さす。戦兢やしおそきけ、ふさるる、必んと思て

西ノ四ノ六

三

むらねとてそ大徳の顯つるもの  
 礼回取履梨下直冠是ハ賢人乃心なり賢人  
 乃心操五角こころ物よけすきし賢人の水精  
 のとく賢人の水精とく水精水何とせ賢人  
 物あましとく水あがりやしく光輝のひりあま  
 がしくまよろく我なるよあしくさきハ  
 さくふ珠一だく礼の田とさく時後乃脱を  
 して礼ハさく礼を履とさくさくさくわんわ  
 亦梨下とさく時冠何とさくさくさく  
 礼あらんさくさくさくさくさくさくさく  
 と礼冠とさくさくさくさくさくさくさく

又大かむを聖人  
 礼とれくものこと  
 く遠ひら聖人  
 礼とれくものこと  
 まん是玉徳  
 物や是とて  
 後さくさく  
 さくさく者あり



禮不答

才三

巢父許由

巢父許由ハ世とのりて山林に隠れ人あり賢人あり  
 去つは堯王代と譲らんを許由に勅使と下りきり  
 許由辞去く樵をこりて汝支りさく歸川に漱  
 耳とそ洗ひひらりつら一石の巢父牛のわらんと  
 事りしうきとらんそらうと回入許由とみれり  
 とゆふ巢父驚き斬りてさし年洗ひ  
 むんせりいささうらさ牛は何んやとてこみ  
 ろして曰汝樵持とみらや哉愚乃けりき不子  
 とたう岨に坐せぬと人かよふやうに故  
 工匠一伐とらと斬と免ぬらとく乃をさる

龍とてうゆよ  
 位ありハ身を  
 堯の使ふゆん  
 口を笑ひら  
 許由洗耳  
 巢父牽牛  
 取れと  
 ころ



第に

劉訓

劉訓もろし人の好んで黒牛と飼う。或時牛は  
 鹿茸の盛るなる牡丹のりふ繫を同とのやま  
 め鹿茸のころころ客舟りて牡丹の妖艶このやま  
 うりき交とやめ々に劉訓は牛の事を  
 のと教へける。是は公牛のといひて人の  
 ばと年

三じりあつた

牛とあし

毛り伝う牛の美

黒牡丹といふ

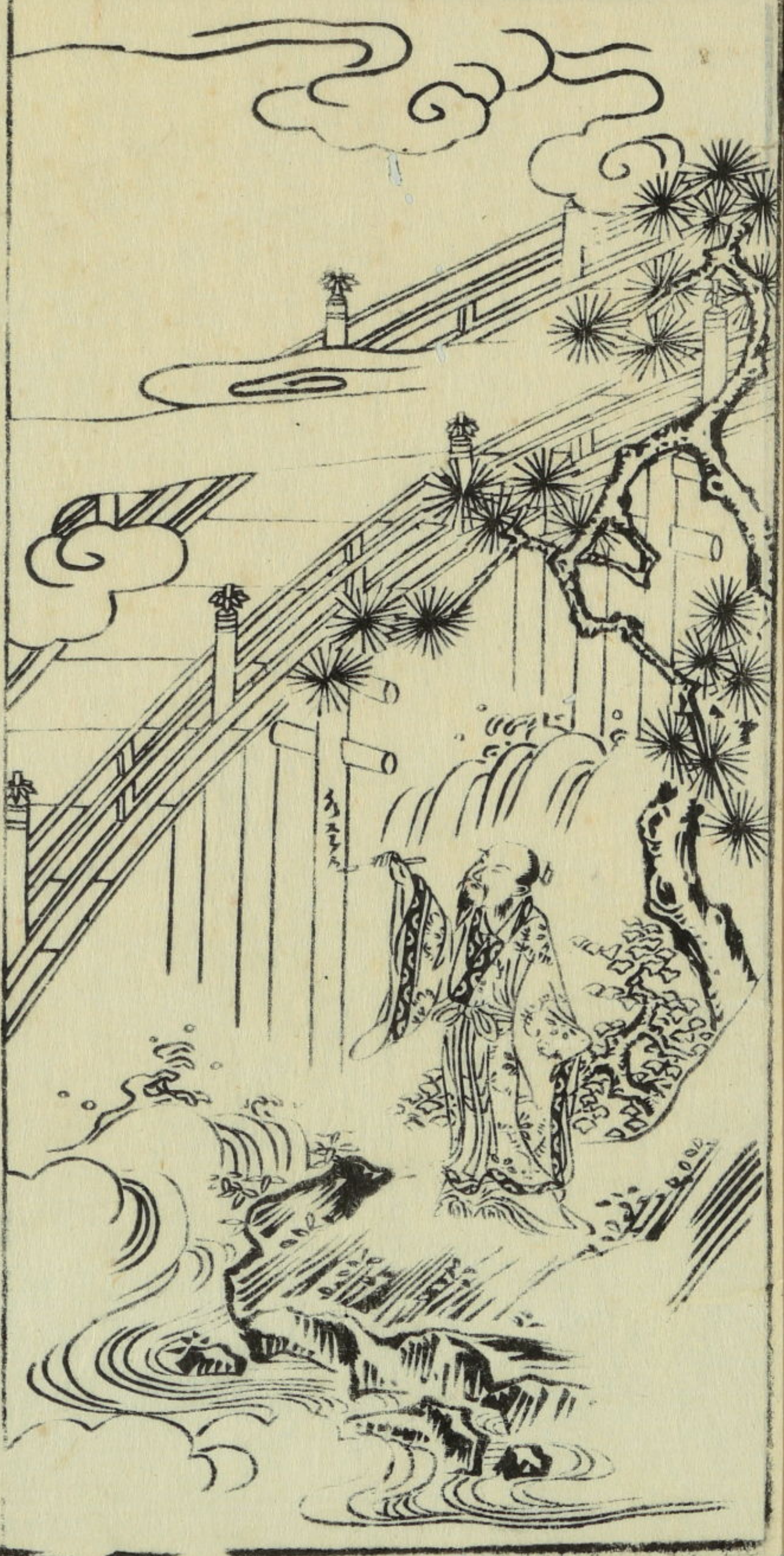


才女 司馬相如

唐土蜀城乃北七里に昇仙橋有り。司馬相如云し人  
 学文ふり時ば橋根よ記さく曰大丈夫駟馬の車ふ

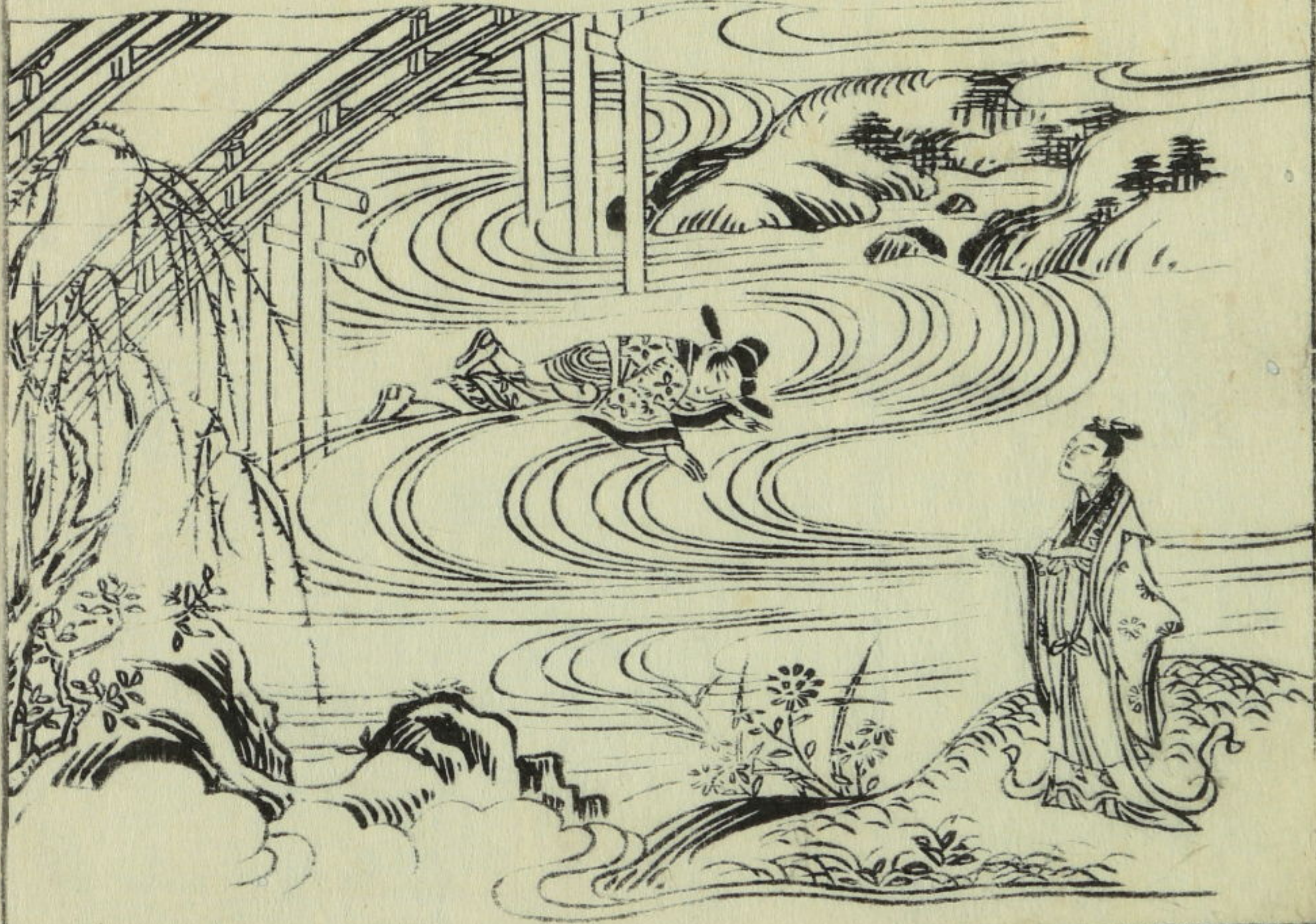


のどいけ橋とて交りては誓ふ果て景帝にたて  
 思ひゆくに武騎將軍とあり。彼橋と後つゆりしと  
 かりげんとたねあり。堀河院百首の橋の歌  
 傳ふと橋のくらしよきつきて昔人の位  
 我はさけよよのつらに海しと君とて  
 定ぬは新橋の下の山吹  
 傳ふくらしぬらん出るん  
 いそそそ自ふやまうづらのもくれ



第六 尾生  
 尾生と云し人の信とちりて一人也。或時女と誓ふ  
 あり。今宵は橋の下に身を沈めんとす。約談をく。尾生

先立て板橋の下ふり  
 時依り水も暮りけしむ  
 約と遠へ一とよとよ  
 流るる水も死して心ひの切なり  
 むの聲もよも豊間集も見  
 たり。ゆき女もてをいさ  
 飛と川下をくつを尾生  
 ハ控はとあつたりのあり  
 と流るる水も暮りけしむ



韓退之孟東野

才七  
 韓退之と孟東野ハ莫逆の交なり。或は孟子孟東野  
 義の年ありしに韓退之ありて乞と乞せり。或  
 時韓退之移居よ  
 たり。あつたりのあり  
 死にばあつたりのあり  
 ぬ。あつたりのあり  
 んとあつたりのあり  
 暮く日暮いふと  
 ろ。あつたりのあり  
 らとあつたりのあり



先立て板橋の下ふり  
 時依り水も暮りけしむ  
 約と遠へ一とよとよ  
 流るる水も死して心ひの切なり  
 むの聲もよも豊間集も見  
 たり。ゆき女もてをいさ  
 飛と川下をくつを尾生  
 ハ控はとあつたりのあり  
 と流るる水も暮りけしむ

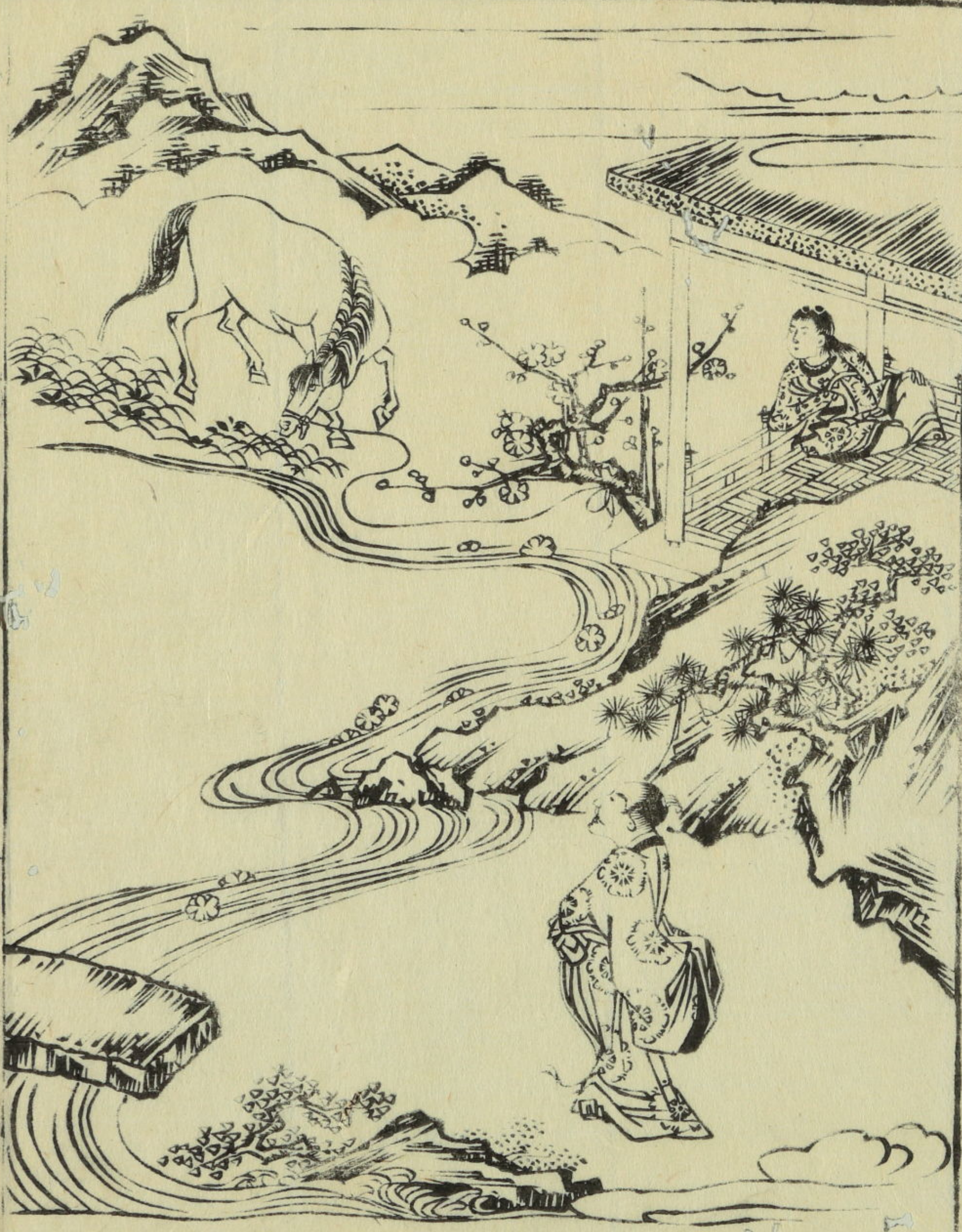
らんや 笑りしとや 韓雲孟龍乃約とて  
此の世にこそ世にあらましくふたふし

東坡李節推

李節推 東坡風流の因あり富湯の新  
所へ移り李節ハ二首先の世に風水洞  
とて 東坡李節推とてふしゆくたす  
の云ふ

漢橋曉溜泛李夢 知馬鞍系馬岩花落

いふの工下あまごを記しゆく小違あまご  
此二句とてゆく世にあらぬけり  
白例とてゆく准知る



第九

仁公孔子

仁公孔子ハ好んで釣ハリ人なり糸二釣と竿子折て  
魚乃魚と作りしと云

第十

義公之翁

翁乃翁に義翁と云く舟と釣と神と書ハ  
独釣寒江雪と云 醉あまむなり

第十一

大公望

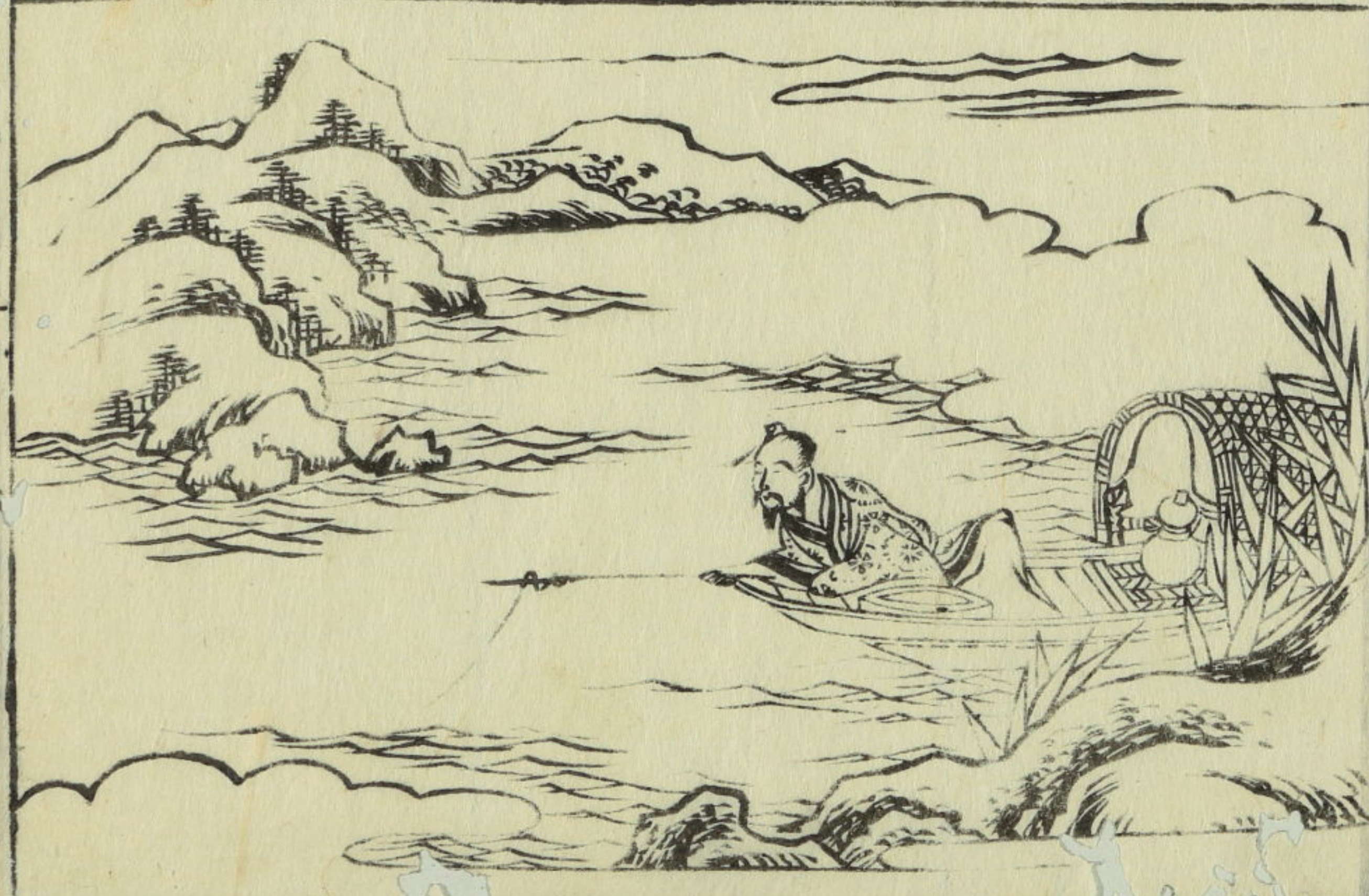
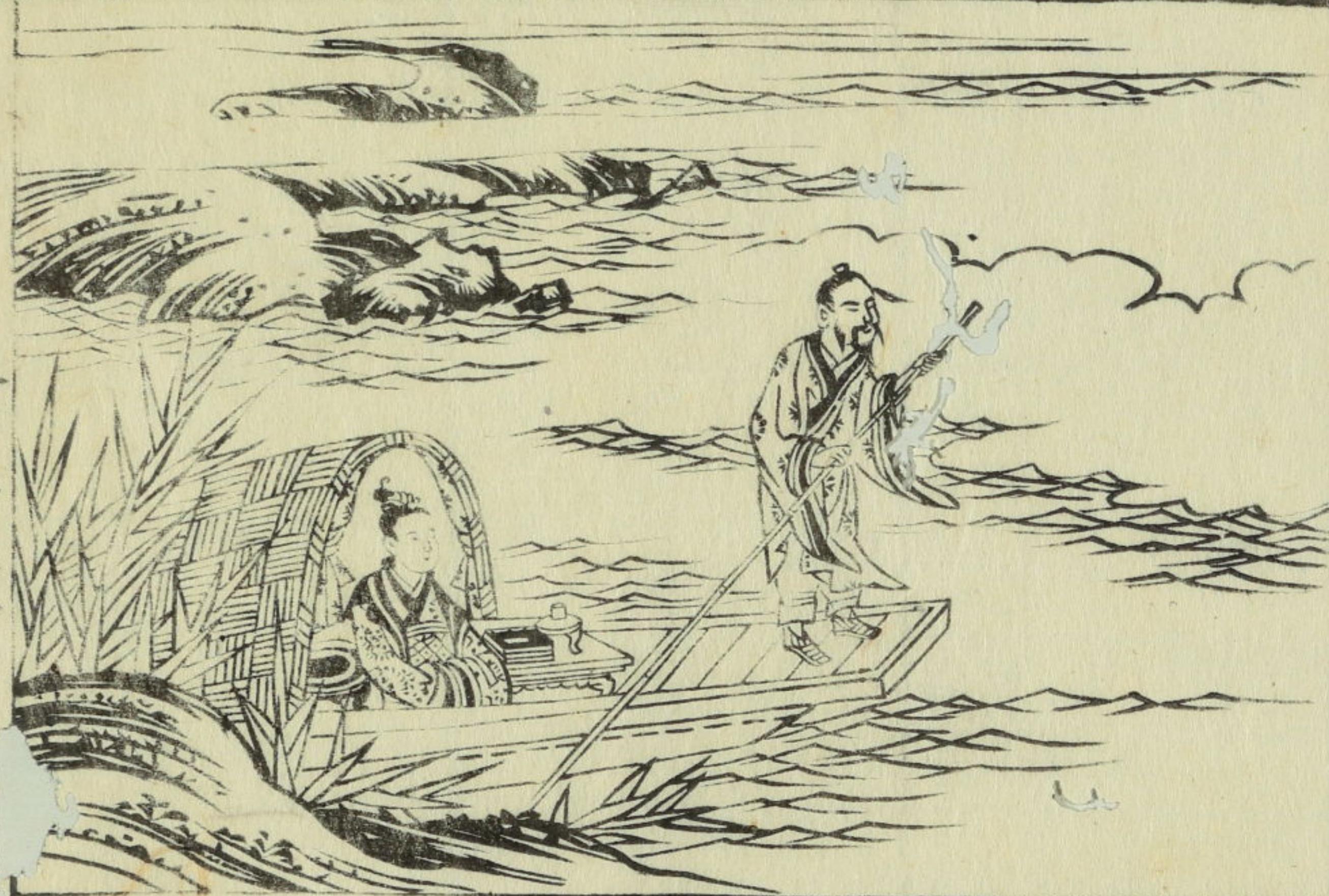
大公望ハ渭漢子釣ハリ人なり文王賢  
佐と欲ハ 釣ハリ舟の付トて飯而も即ハリ供トて  
吟りぬふと云



第十二

范蠡

范蠡ハ越ノ王勾踐トシテ人レ辱下ナリ。吳ノ王夫差トシテ人ト勾踐ト大ニ戦ハレ。越王討テ范蠡ガ計ニシテ逃リ。吳王トワラガセリ。その功名遂身退ハ天ノ力ナリ。是ト受ズ。五湖トシテ去テ扁舟ヲ棹シ。魚トシテ生ケル。樂ム。後ニ富貴ハ勿トナリ。陶朱公トシテ名ト変ヘリ。故変大凡世ノ耳ナリ。是トシテ新トシテ西施ハ淫女ナリ。是トシテ林申トシテ女トシテ女トシテ女トシテ五湖トシテ隠ル。世





ふまゝん  
富山といふ  
ゆきで耕作  
まゝりたり  
とらとの  
あつち  
いふまゝん



